

電力・ガス小売り自由化は100年に1度の好機 海外は成長する国にLPGガス事業投資

サイサン 川本知彦 代表取締役副社長

1945年創業のサイサン（川本武彦社長）は、2045年の100周年に向け、「アジア・太平洋地域において総合エネルギー・生活関連事業でリーディング企業になる」という100年ビジョンを打ち立てた。国内の電力の自由化、都市ガスの自由化を機に、総合エネルギー企業へと躍進する同社だが、海外展開の糸口は主力である「LPGガス」という。手腕を振るう川本知彦副社長に同社海外戦略の考え方を聞いた。

LPガスは日本の歩みを海外で再現

同社の海外進出は2008年からスタート。現在、モンゴル、ベトナム、オーストラリア、インドネシア、カンボ

ジア、バングラデシュと、6カ国7事業会社を持ち、海外の比重はどんどん高まっている。海外進出では、人口の増加や、若年層が多いアジアを中心に展開し、その伸びしろの大きさに期待する。

「昭和20年代後半からLPGガス事業の歴史を積み重ねてきた。海外では各地域に同じたローカライズが必要だが、日本で培ったノウハウや技術を十分に生かすことが出来る。現在、東南アジアでは昭和30年代と同じくらいの経済成長により生活のレベルが高まっているが、この国が経験していく未来を我々は予測することが出来る」



川本知彦副社長

今年6月にカンボジア、11月にはバングラデシュで現地法人をスタートしている。バングラデシュでは財閥系オメラ・ペトロリアムとパートナーを組み、50%ずつの出資でオメラ・ガスワンを立ち上げた。LPGガスの導管供給をはじめ、エンジニアリングを伴う大型物件などを担当していく。

資本参加設立年	国	社名	業容
2010	Mongolia モンゴル	UniGas LLC ユニガス LLC	Operation of AGS オートガス・ステーション運営 業務用・家庭用LPガス販売
2012	Vietnam ベトナム	Sopet Gas One ソペット ガスワン	Industrial use LPG 産業用・業務用LPガス販売
2013	Australia オーストラリア	Refresh Waters Queensland リフレッシュウォーターズクイーンズランド	Drinking Water Sales 飲料水製造・販売・宅配
2014	Vietnam ベトナム	Anpha Petroleum Joint Stock Company アンファ ペトロリアム グループ	House use LPG 家庭用・産業用・業務用LPガス販売
2015	Indonesia インドネシア	Gas One Indonesia ガスワン インドネシア	LPG Filling service LPガス充填サービス
2016	Cambodia カンボジア	Gas One Cambodia ガスワン カンボジア	Industrial use LPG 産業用・業務用・家庭用LPガス販売
2016	Bangladesh バングラデシュ	Omera Gas One オメラ ガスワン	Industrial use LPG 産業用・業務用・家庭用LPガス販売 オートガス・ステーション運営

海外積極展開のDNA

同社の海外展開を振り返れば、これまでも積極的だった。

創業者の川本二郎氏は昭和43年、国内初となる韓国へのカーガス・ステーションの輸出を皮切りに、LPGガスによる集団供給プラントの輸出・技術支援により、ソウル市長から表彰された。2代目川本宜彦氏は中国の上海市煤气公社とLPGガス技術友好協定を締結、グローバル経営の契機となり、3代目川本武彦氏のDNAにも組み込まれているという。

しかし、2008年に山東省で始めた中国でのLPGガス事業は不調に終わった。「中国ではプロパンに粗悪な燃料を混ぜて売る違法販売が横行しており、適正な競争環境が整わなかった。さらにインフラ整備のスピードが速く、都市部のエネルギーは都市ガス化が進んでしまった」

撤退のタイミングを失っている企業も多いと見聞きするなか、穏便に完全撤退できたこともいい経験になった。

海外売上2020年に30%めざし

海外の売上は現状153億円。昨年の連結913億円に対し、16%ほど。カンボジア・バングラデシュを加え、20年に30%くらいに倍増させたいとする。

「国内におけるLPGガスは20年間右肩下がりでの成熟産業だが、世界を見れば成長産業となる地域は多い。しかも日本の安全技術や基準は世界一だ。長年当社が培ってきたノウハウと併せ、海外展開をますます加速していく。」

また、海外事業に伴う人材育成にも注力しているほか、ベトナム人、モンゴル人、ミャンマー人、ネパール人を採用している。高い志を持つ日本の大学を卒業した海外留学生に注目しており、日本と自国の架け橋となり自国の成長を願うハンゲリー精神は見習うべきものがある。

産業ガスや医療ガスへ展開することもあり得る。LPGガス事業のように日系企業という強みがあるほか、ディーラーのフットワークを活かせる分野もあるのではないかと。国内における電力、ガスの自由化もまたとないビッグチャンスと捉える。トップランナーとなるべく、ガスワングループの総力を挙げて取組んでいく。

熱く語った知彦副社長の、日本をはじめ、アジア・太平洋地域での総合エネルギー・生活関連事業でリーディング企業となるためのドラフトは明確だ。